



営農NEWS



抑制トマトにおける黄化葉巻病の防除を徹底しましょう

トマト黄化葉巻ウイルスを媒介するタバココナジラミ類の施設への侵入を防虫ネットの展張などで阻止し、さらに殺虫剤による防除などを徹底して、ウイルス病の発生を抑制しましょう。

また、発病株を早期に適切に処分し、産地における伝染源の撲滅を図りましょう。

(発病が確認された株は抜き取り、施設外に持ち出し、ビニール袋内などで腐熟させるか、土中深く埋めるなど適切に死滅処分しましょう)

[総合防除のポイント]

ウイルスを媒介するタバココナジラミ類防除の基本として、施設内に虫を①入れない、②そこで増殖させないことが重要です。①の施設に入れない対策としては、出入口や天窗・側窓など施設の開口部に防虫ネット(目合い 0.4 mm 以下)を設置します。また、害虫の飛来源、ウイルスの保毒源となる雑草や野良生えなどのトマトは、常に除草や抜き取りを徹底してください。なお、施設内へは栽培トマト以外の植物などを搬入、栽培しないことが重要で、これらの植物とともに害虫を持ち込む危険性があります。

次に、②の施設内でタバココナジラミ類やウイルスを増殖させない対策としては、定植時に殺虫剤などを処理し、さらに栽培中はトマトを注意深く観察して早期発見に努め、早期防除や発病株の処分を徹底します。また、施設内に黄色の粘着トラップを設置して微小害虫を誘引し、密度の抑制を図るほか、薬剤防除時期の目安にします。薬剤は下記の表 1 を参考に作期全般における総使用回数を考慮して選択し、また抵抗性害虫の出現を防ぐため、ローテーション散布が必要です。

さらに、③栽培が終了した後の対策としては、施設内の微小害虫が逃げ出す前にハウス内の蒸し込み処理などで死滅させて、施設周辺におけるタバココナジラミ類の密度低下を図ることが必要です。微小害虫は飛翔しますので、周辺を含め地域全体での連携した共同防除が重要になります。

表 1 トマト、ミニトマトの生育期におけるコナジラミ類の主な防除薬剤(平成 26 年 7 月 16 日現在)

薬剤名	対象作物		希釈倍率	使用時期/使用回数
	トマト	ミニトマト		
ベストガード水溶剤※	○	○	1,000~2,000 倍	収穫前日まで/3 回以内
スタークル顆粒水溶剤※	○	○	2,000~3,000 倍	収穫前日まで/2 回以内
アニキ乳剤	○	○	1,000~2,000 倍	収穫前日まで/3 回以内
コルト顆粒水和剤	○	○	4,000 倍	収穫前日まで/3 回以内
ハチハチフロアブル	○	○	1,000 倍	収穫前日まで/2 回以内
コロマイト乳剤	○	○	1,500 倍	収穫前日まで/2 回以内
サンマイトフロアブル	○	○	1,000~1,500 倍	収穫前日まで/2 回以内
ディアナSC	○	○	2,500 倍	収穫前日まで/2 回以内
ノーモルト乳剤(IGR)	○	○	2,000 倍	収穫前日まで/2 回以内

注) 薬剤名の※印は同一系統(ネオニコチノイド系)剤です。連続使用は避けてください。

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話: 029-291-1012 FAX: 029-291-1040